

中宮北小だより

～校長室より～

令和元年5月31日(金)
第3号
枚方市中宮北町4番1号
枚方市立中宮北小学校
校長 中田祐之(まさゆき)

オープンスクール・PTA予算総会を行いました

5月18日(土)はオープンスクール・PTA予算総会を実施しました。保護者の皆さまには多数ご来校いただき、授業中の児童たちの頑張りの様子をご覧いただきました。

昆虫科学教育館館長の久留飛克明(くるび かつあき)先生からは、昆虫のクイズや工作を通して、自然に対する気づきを大切にするようにお話をいただきました。

またPTA予算総会にもご出席をいただきありがとうございました。今年度もよろしくお願いたします。

安全確保に向けて

毎年6月は「子どもの安全確保推進月間」、6月8日は「学校の安全確保・安全管理の日」として設定されています。6月は、多くの場面で子どもの安全確保に向けた取組みが実施されます。児童には、日頃より安全確保についての指導をしているところですが、徒歩の時の交通マナーや、自転車に乗っている時の交通ルールを守っていくことも必要になります。保護者の方からも、お子様に日常生活で気をつけることなど、お話いただければ幸いです。児童の交通マナーを向上させるための指導を継続していく予定です。



時間を大切に

日本の奈良時代に書かれた歴史書である日本書紀によると、671年6月10日、天智天皇の時代に、日本国内で水時計が初めて鐘を打ちました。これを記念して、時間の大切さを尊重する意識を広めるために6月10日は『時の記念日』とされました。うまく使えば時間はいつも十分にある。という言葉もあります。時間を無駄使いすることなく毎日を大切に生活してください。

紫陽花(あじさい)について

紫陽花の花弁のように見えるのは「がく」で、花は中に細かい粒のようになっています。日にちが、たつにつれて花の色が変わります。「あじさい」の語源は「藍色が集まったもの」を意味する「あづさい」からきているという説があります。



*小学校のホームページには、カラー版の『中宮北小だより』を掲載しています。

梅雨前線（ばいうぜんせん）について

5月から7月にかけて、日本列島を南から北上する停滞前線のことです。6月上旬になると本州南方海上に湿った太平洋高気圧がはり出し、日本列島上に湿った暖気を南風として送り込みます。一方、オホーツク海には湿った冷気のオホーツク海高気圧が発達して、北海道、東北地方から日本海にはり出し、湿った冷気を北東風として送り込んでいきます。この二つの気団が日本列島付近でせめぎ合い、東西に走る梅雨前線ができることにより九州、四国地方、本州が梅雨入りとなります。このせめぎ合いは一進一退して長期に停滞し前線に沿って低気圧がしばしば東進しながら雨を降らせます。オホーツク海高気圧が勢力を弱めるとともに梅雨前線が北上して消滅すると、梅雨明けを迎えます。

熱中症（ねっちゅうしょう）について

大人に比べて子どもは、体温の調節機能の発達が十分ではないため、環境の温度変化に影響されやすく、汗をかく能力も十分ではなく、熱中症になりやすいと考えられています。

これからの梅雨の晴れ間や、梅雨明けの蒸し暑くなった時期にも熱中症は多く見られます。この時期は身体がまだ暑さに慣れていないので上手に汗をかくことができず放熱量が低くなるため体温をうまく調節できないからです。



子どもの熱中症対策5つのポイント

(1) 普段からの体調管理

栄養バランスの取れた食事と十分な睡眠で、体力づくりが重要です。体の免疫力が下がっていると、熱中症にかかりやすくなります。

(2) 顔色・汗のかき方を観察

赤い顔や大量の汗をかいているのは、熱中症のサインです。涼しい場所で十分な休息をとみましょう。

(3) こまめな水分補給を

麦茶がおすすめです。スポーツドリンクや、体への吸収が早い経口補水液も有効です。緑茶には利尿作用があり、摂取した以上に水分が失われる可能性があります。

(4) 日頃から暑さに慣れる

日頃から適度に外遊びをして暑さに慣れておくことと上手に体温を放散することができ、熱中症を防ぐことができます。

(5) 服装で予防

直射日光から守る帽子の着用はもちろん衣服にも熱中症を予防できるものがあります。着衣が汗で肌にくっつくと、汗の蒸発を妨げ放熱の支障になるので速乾性の高いインナーがおすすめです。

